

宇井縫藏宛 明治四十三年十月十七日・十八日 二枚同封

〔封筒〕

宇井縫藏様

南方熊楠拝

*切手なし、宛名なし

〔一通め〕

〔裏面、畳んだ状態で宛名書きあり〕宇井様 南方拝

明治四十三年十月十七日夜

先刻は失敬 只今下女御近辺へ参り候付
標品差上候 あとは又明日辺り差上可申
候（あとは少々残り居るのみ）

小生採集時日の日記捜し出候付少々

書付置き候

Ⅱ 図 Ⅱ 明治三十四年十一月より三十七年九月

迄集めたるにて候、

ノブドウの葉の欠刻 甚深きものあり

大学目録に日光のみ産所たり

是れは「オフクカヅラ」にや 小生は入らぬから

貴方へひかえ分とり前方へ御出し被下度候

又

Ⅱ 図 Ⅱ ミゾホウツキ

如きもので葉鋭尖毛あり 水中ならで丘側の

草むら中に基まれに見るものあり 浜の宮

海に臨める丘側なり 花黄、紫褐の中心あり

貴下此ものを知らずば花ある所三本前方へ

おくり貴下二本斗りとりあとは小生に返し被下度候

兎に角あとは悉く明日あたり可差上候間

然るべく御撰定の上前方へ送るべきもの一応小生

に御見せ被下度候 然るときは可成年月を附記可致候

右願上置候

南方熊楠拝

宇井縫藏君

小生はいつも夜分多くは在宅なり。但し近日二川村へ
之くも知れず候。

「二通め」

昨夜送り申上候内に

ツチアケビあり 三本 熊野方言 山の神の

シヤクジヤウ と附記し 花あるのと実

あるのと牧野氏へ送り 実あるもの一本

貴君所蔵中に無くば 御手許へ置被下度候

右は三十七年七月

那智山採集

又那智及び瀬戸辺所集植物 只今持参差上置候

次の日曜夜辺りに風呂敷持ち下女に出向はせ

候間御不用の分御渡し被下度候

牧野氏へ送り序に小生田辺辺でとり候もの

及び中辺路でとり候もの 今明日中にしらべ

廻送可申上候間宜しく御検定被下度候

明治四十三年十月十八日 南方拝

宇井縫蔵君

「参考：紀南文化財研究会編『改訂 南方熊楠書簡集』
番書簡」

宇井縫蔵宛て1番および2